

第2章

研究の実際

第1節

「佐大附特システム」の改善

1 本校のカリキュラム・マネジメントに関する課題の整理

令和元年11月15日、16日に開催した第15期研究の研究発表会（兼：第32回日本教育大学協会全国特別支援教育研究部門合同研究集会佐賀大会）では前期研究の概要を提案した。その協議の中で、カリキュラム・マネジメントの教育計画における各段階での課題が整理されていないという指摘があった。指摘どおり、前期研究では、本校のカリキュラム・マネジメントの大枠を整えることを中心に取り組んできたため、各段階での課題整理までは行うことができていなかった。

また、本取組は、将来的に、研究活動から通常業務としての運用に移行することを想定しているが、「働き方改革」における教師の業務精選との兼ね合いから事務処理の質を調整するなど、システムを円滑に運用するための課題があることが一年次の取組を通して明らかになった。

カリキュラム・マネジメントにおける教師の意識調査を行ったところ、「佐大附特システム」とカリキュラム・マネジメントに係る各計画の課題として以下のような意見が出た〔表-1〕。

〔表-1 「佐大附特システム」とカリキュラム・マネジメントに係る各計画
についての課題〕

| | |
|------------------|--|
| 年間指導計画の作成と評価について | <ul style="list-style-type: none">・エクセルのテキスト挿入での入力に手間がかかる。・活動内容と指導内容の違いが分かりにくく表記が難しい。・日常生活の指導は、期間的な単元ではないので、年間指導計画に単元として表しにくい。同様に小学部の国語・算数も半期で目標を設定する個別指導なので、学年単位の年間指導に記入しにくい。・新入生や転入生など、実態に関する少ない情報の中で、単元を考えて年間で配置することが難しい。 |
| 単元計画の作成と評価について | <ul style="list-style-type: none">・「単元の個人目標」を重複して記入しなくていいように様式を改善する必要がある。・年間指導計画にも活動内容と指導内容の表記が混同するなど、活動内容と指導内容の表記の仕方が分かりにくい。・1つの単元で育成を目指す資質・能力の3つの柱をバランスよく達成させることが難しい。児童生徒により異なるのではないか。・学習指導要領の改訂に伴う学習評価の改善で提言された評価の3観点を本校ではどのように考え、どう設定するかを検討を深めなければならない。 |

| | |
|------------------------------|---|
| <p>指導案や指導略案について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・指導案では、「育成を目指す資質・能力の3つの柱」の記入項目があるが、単元全体で3つの柱をバランスよく育成することと矛盾した様式になっているのではないか。 ・特に学部一斉の授業については、毎日の授業計画において個人目標を設定するのが大変である。 ・主体的、対話的で深い学びを実現する視点で授業改善するための記入項目があるが、具体的にどのようなことを挙げていくのか分かりにくい。 |
| <p>各計画の活用について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・年間指導計画は他の計画と比較すると目にする機会が少なく、活用している実感がない。 ・年間指導計画や単元計画は教師間で情報共有するために、目にする機会を増やすとともに、探し回らなくても、必要な情報が手に入りやすくする必要がある。 ・年間指導計画の評価と教育課程の改善とのつながりが分かりにくい。教育課程の改善に年間指導計画が生かされていることを分かりやすく示すように改善したい。 ・作成に時間を掛けるのではなく、作成したものを使って情報共有したり、指導・支援を工夫したりすることが重要である。 ・年間指導計画に縛られると、児童生徒の変容を見ながらの自由な単元設定ができなくなるのではないか。 |
| <p>カリキュラム・マネジメント構造図について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・構造図が本校のカリキュラム・マネジメントを表現するに妥当なものであるかについて、再検討していかなければならない。 |
| <p>カリキュラム・マネジメントフロー図について</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・構造図とフロー図の役割を明確にし、より見やすいものに改善する必要がある。 ・実際の取組を表すものになっているか見直す必要がある。 |
| <p>その他</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教科別の指導は、目標設定等を行いやすいが、各教科等を合わせた指導の単元設定や指導内容の選定、個人目標の設定が難しい。 ・個別の指導計画の目標設定や、各教科等を合わせた指導の目標設定を教科別に行っているのだから、「教科の見方・考え方」「教科の特質」について研修をしていかなければならない。 |

こうした教師の意見を総合すると、課題を以下のように整理できる。

- ① カリキュラム・マネジメントに係る各計画の役割や意義を明確にし、記入しやすい様式の改善が必要
- ② 作成した各計画について教師間で活用しやすいシステムの構築が必要
- ③ カリキュラム・マネジメント構造図やフロー図の見直しが必要
- ④ 適切な指導内容の選定や目標設定がしやすいツールが必要
- ⑤ 育成を目指す資質・能力の3つの柱や評価の観点、主体的・対話的で深い学びの視点での授業改善についてのより深い理解が不可欠

このように整理した課題を踏まえ、今期研究ではカリキュラム・マネジメントに係る各計画について、以下の3つの取組を行うこととした。

- ① カリキュラム・マネジメントに係る各計画の様式を見直し改善すること
- ② 各計画の関係性を整理し、様式中の項目やその書き方についても説明を入れながら、教師間の共通理解を図ること
- ③ 計画を作成するだけに終わらず、教師間の授業に関する会議等で使うなどの使い方を工夫していくこと

2 カリキュラム・マネジメントに係る各計画の見直し

まず、「カリキュラム・マネジメントに係る各計画の様式を見直し改善すること」について、指導計画、単元計画、指導略案、指導案の様式の改善に取り組んだ。

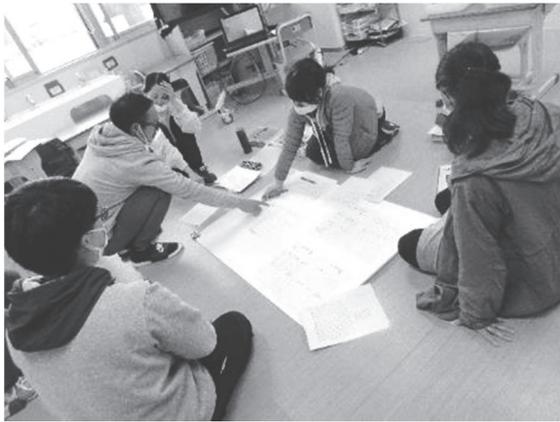
方法としては、小学部、中学部、高等部を縦割りにしたグループごとに協議を行い、これまでの様式の改善すべき点を改めて洗い出した後〔図-7〕、様式案を作成するようにした〔図-8、図-9〕。次に、各グループで出された様式案を全教師が目にする場所に掲示し、全教師からのコメントを付箋で書き込むようにした〔図-10〕。そのコメントの入った様式案をベースに、研究部会や研究推進委員会等で各計画の様式案を検討し、改善案を決定するという手順で取り組んだ。



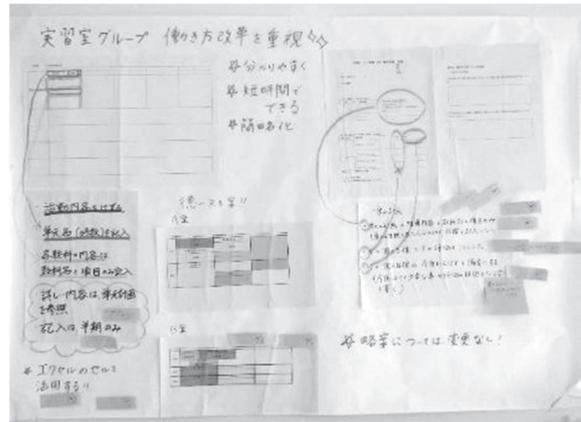
〔図-7 現様式の問題点の洗い出し〕



〔図-8 様式案の作成①〕



〔図－9 様式案の作成②〕



〔図－10 様式案の貼り出しとコメント記入〕

各計画の関係性や、その計画を作成する意義等も今一度確認しながら検討を進め、検討の結果として、各計画の新様式とその記入の仕方について、「カリキュラム・マネジメントに係る各計画の様式と作成マニュアル」としてまとめ、配布した。

(1) 各計画の関係性の整理について

「カリキュラム・マネジメントに係る各計画の様式と作成マニュアル」には、各計画がカリキュラム・マネジメント構造図ではどの部分にあたるのかをまず示した。次に、カリキュラム・マネジメントに係る各計画の概要とねらい及び記入項目〔表－2〕について示し、カリキュラム・マネジメントフロー図も、これらの計画作成に係る部分を中心に抜き出してマニュアルに記載した。

なお、年間指導計画の項目中の日常生活の指導については、これまでも单元ごとの計画という形式にそぐわず、日常生活の指導の目標設定や評価や指導のための計画立案ができていなかったという課題があがっていたため、今期研究では別様式で児童生徒一人ひとりに半期の計画を作成することとした。半期という長期的な計画であることから、年間指導計画から「日常生活の指導」の項目は外し、日常生活の指導の計画が、年間指導計画（全指導形態のうちの日常生活の指導について）の役割も果たすこととした。

〔表-2 カリキュラム・マネジメントに係る各計画の概要と記入項目〕

| | □概要 ■ねらい | 項目 |
|-----------------|--|---|
| ア 年間指導計画 | <p>□ その学年に所属する児童生徒が「各教科等のどの内容について、いつ、どの授業のどの単元で学ぶのか」を、1年間を見通して計画を立て、評価を行う。</p> <p>■ 児童生徒のどのような資質・能力を育成するのか、またそのためにどのように単元を計画するのか、教師が1年間のスパンで見通しがもてるようになる。</p> <p>■ 教科名と指導内容を端的に挙げることにより、教育課程に基づく教育活動がどのように実施されているか見取ることができる。</p> | <p>学部学年・時期・指導形態・教科（指導の時間）・単元の時数・各教科等の指導内容</p> |
| イ 日常生活の指導の計画 | <p>□ 日常生活の指導については、年間指導計画に替えて、児童生徒一人ひとりに半期ずつの計画を作成する。</p> <p>■ これまで明文化されていなかった児童生徒一人ひとりへの指導における教師の意図を明確にすることができる。目標達成に向けた手立てを教師間で共有することができる。</p> <p>■ 個別の指導計画では網羅できなかった基本的な生活習慣等に係る実態の引継ぎ資料等として活用できる。</p> | <p>学部学年・期間・日常生活の指導でせまりたい個別の指導計画の半期目標・指導場面・目標・手立て・指導に充てる時間（分／日）</p> |
| ウ 単元計画 | <p>□ 児童生徒のどのような資質・能力を育成するのかについて明確にした単元の目標や学習活動の計画、及び単元の個人目標の設定、その評価を行う。</p> <p>■ 年間指導計画にあげた指導内容について学部段階を記入し、具体的な習得の目安を設定することで、活動内容や手立てを設けることができる。</p> <p>■ 個別の指導計画の目標と連動させての目標設定や評価を行うことができる。</p> | <p>単元の期間・活動場所・対象児童生徒・指導者・単元の目標・単元の時数・単元の計画（日時・学習内容・各教科等の指導内容）・単元の個人目標・個人目標の評価（評価の観点に沿って）と今後に向けて・単元についての気付き等</p> |

| | | |
|-------------------|---|--|
| 工 指導 路 案 | <p>□ その単元の授業にあたる教師全員が、単元目標や、単元の個人目標を共有できていることを前提として、T1がその日の授業のねらいや、展開（授業の流れ）を設定し、授業終わりには「主体的・対話的で深い学び」の授業改善の視点で、授業の振り返りを行う。</p> <p>□ 作成については、学習グループや単元計画の実情に応じて頻度等を工夫するようにする。</p> <p>■ 教師間の共通理解を図り、連携を強化しながら、授業改善のツールとして活用することができる。</p> | <p>日時・活動場所・対象児童生徒・指導者・本時の目標・展開（時間、学習活動、指導・支援）・授業改善について（主体的・対話的で深い学びの授業改善の視点に沿って）</p> |
|-------------------|---|--|

(2) カリキュラム・マネジメントに係る各計画の様式や記入方法について

ア 年間指導計画〔表-3〕

年間指導計画は、前期研究の様式から大幅な変更はないものの、2点について変更を行った。1点目は、作成方法として、エクセルのテキスト挿入からセル入力に変更した点、2点目は、「活動内容」について、年間指導計画と単元計画で記載が重複していたが、単元計画に一本化し年間指導計画には記入しないようにした点である。このことにより、処理や見やすさに改善が図られた。

〔表-3 年間指導計画 記入例〕

中学部

年 R3年度 前期 年間指導計画

| | | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 | |
|----|--|---|--|---|---|--|---|
| 国語 | A | 自己紹介をしよう 10 ・相手や目的を意識して、自分のことを話す。 ・伝える順序や語順を考える。 ・友達について知り、主体的な学ぶ態度の土台を培う。 | いろいろな話を読もう 20 ア 探題「探偵物語」指宗理の役割などについて理解する。考えとその理由について説く。 イ 語や語句の意味を基に時間的な順序や事柄の順序など内容の大体を捉える。文章を読んで分かったことを伝えたり、感想をもったりする。 ウ 事実を捉えながらも、情景や心情がどうなのかを想像しようとする態度を養う。 | | | | |
| | B | 「質問に答えよう」 12 ・適切な話し方、伝え方 ・内容の大体を考えること | 「ポスターを作ろう」 13 ・伝えたい事柄を考えること ・文章の簡単な構成を考えること ・助詞、語句の使い方 | | 「電話で話そう」 10 ・電話での言葉遣い ・話の聞き取り、応答 | | |
| | C | 【ことばさがし】語句の読み方、書き方 【今日のおはなし】内容の大体を聞き取る。（年間を通して行う） 35 | | | | | |
| 数学 | A | 4位数までの数 13 ・4位数までの大小や順序 ・10倍・百倍・10分の1について ・概数 | 数と計算 15 ・4位数までの加法と減法 ・2位数同士の乗法・除法 | | 分数と少数の計算しよう 11 ・10分の1の位までの少数の表し方 ・少数との計算 ・少数の乗法と除法 | | |
| | B | 数の数えよう(数と計算) 10 ・1対1対応 ・5までの数 ・10のまとまり | | 足すかな引くかな(数と計算) 13 ・1対1対応 ・5までの数 ・一桁の足し算、二桁の足し算 ・一桁の引き算、十〇一桁の引き算 ・計算の意味 | | 形を分けて(図形) 10 ・図形のマッチング ・形の名称 ・形の合成分解 ・直線 | |
| | C | 世界の楽器や音楽 14(曲により時数は違う) | | | | | |
| 音楽 | スケッチしよう(デッサン) 2 ・題材の発想や構想 ・鉛筆を使った描き方 | | | | | デザイン 10 ・題材の発想や構想 ・様々な題材 ・題材の使い方 | 共同製作(学習発表会) 8 ・絵や文字の配置・構成 ・題材の選択・使い方 ・作品や造形品のよさ、おもしろさ ・制作過程 |
| 美術 | オリエンテーション 2回 4 ・体づくり ・決まり | 運動会 16 ・短距離 ・長距離 ・リレー ・運動会種目を含む | 器械体操(雨天時) 8 | 水泳(晴天時) 12 | 球技(ゴルフ型・個人種目) 12 ・ゴルフ | | |

イ 日常生活の指導の計画〔表-4〕

今期研究では新たに「日常生活の指導の計画」を設けた。まず、個別の指導計画の目標が実際の指導の中で達成されるようにすることを主軸とし、日常生活の指導の中でせまりたい「個別の指導計画」の半期目標の項目を設定した。日常生活の指導は学校生活全般で指導が行われると捉えて指導場面を設けた。指導場面は学部別に設定するようにし、その指導場面ごとの一人ひとりの各教科等の目標を記入するようにした。

〔表-4 日常生活の指導の計画 記入例〕

| 学部学年 | 氏名 | 期間 | |
|--|---|--|-----|
| 小学部〇年 | 〇〇 〇〇 | R3年4月～R3年10月 | |
| 日常生活の指導の中でせまりたい「個別の指導計画」の半期目標 | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・友達と廊下の掃除をすることができる。(生) ・係活動で、教室黒板の日付カード替えや振り返りボードのシールの準備をすることができる。(生) | | | |
| 指導場面 | 目標 | 手立て | 分/日 |
| 朝の支度・帰りの支度 | <ul style="list-style-type: none"> ・一人でランドセルから学習用具を出し、決まった場所に置くことができる。(生) ・一人で学習用具をランドセルに入れてから、机の横にかけることができる。(生) ・放課後等デイサービスのバッグを机の横にかけることができる。(生) | <ul style="list-style-type: none"> ・棚にイラストを貼る。 ・落とし式のスケジュールを使う。 ・フックを見るように言葉かけする。 | 10 |
| 着替え | <ul style="list-style-type: none"> ・上着やズボンをたたんでバッグに入れることができる。(生) ・上靴のかかをと自分で入れることができる。(生) | <ul style="list-style-type: none"> ・教師がモデルを示したり、言葉をかけたりする。 ・かかるとに注意がむくように、教師が指さしたり動作を見せたりする。 | 20 |
| 係活動 | <ul style="list-style-type: none"> ・カレンダーを見て教室黒板の日付カード替えをすることができる。(算) ・振り返りボードのシールの準備で、台紙とシールの色を合わせて貼ることができる。(算) ・スケジュールを見て係の仕事に取り組むことができる。(自) | <ul style="list-style-type: none"> ・2択から選んで貼るようにカードを並べておく。 ・シールの大きさに合わせた台紙を準備する。 ・落とし式のスケジュールのカードに仕事内容の分かる写真を入れる。 | 15 |
| 朝の会・帰りの会 | <ul style="list-style-type: none"> ・前に出て進行カードをめくって進行を行うことができる。(生) ・進行の言葉をはっきり言うことができる。(国) | <ul style="list-style-type: none"> ・本人の視界に入る位置で、教師が言葉のタイミングや姿勢などのモデリングを行う。 ・発音が不明瞭なときは、教師が口形を見せながらゆっくり話してモデルを示す。 | 20 |

日常生活の指導については、これまでも各教師が意図的・計画的に指導してきた形態ではあるものの、今期研究において、計画として整理し、年々引き継いでいくことができるように可視化を図った。このことにより、児童生徒一人ひとりの長期的なスパンでの系統的な学びと育ちを意識しながら日々指導をしていかなければならないことを、改めて確認することができた。

今後、一層の充実を図るためには、日常生活の指導における各教科等の指導内容（教育課程上の位置付け）の整理が不可欠となる。また、この表を活用して、主に身辺自立に関する項目について、小学部・中学部・高等部のつながりを意識した指導の在り方などを検討していきたい。

ウ 単元計画〔図-11〕

年間指導計画と日々の実践をつなぐ単元計画について、児童生徒の実態等から指導内容を選定し、指導内容を扱う授業のまとまりを、あるテーマに基づいて単元化して年間指導計画に起こすところから学習の計画は始まる。そこで計画された単元を適切に設定・実施するという点では、単元計画における個人目標の設定と評価は特に重視しなければならない。

目標設定にあたっては、育成を目指す資質・能力の3つの柱に沿って、児童生徒の達成する姿を念頭に置いておく必要があるが、単元を進めていく中での児童生徒の変容を予測した上で、単元に取り組む前から、具体的な個人目標を設定するということが難しいという意見が多かった。また、1つの単元で資質・能力の3つの柱をバランスよく育成することは可能か、次の単元や他の指導形態等と関連付けながら、育成を目指すべきではないか、などの意見も出された。

こうした課題に対しては、児童生徒が学習に取り組む姿を、教師が丁寧に見取り、「この単元において、〇〇の学習に取り組むことにより、Aさんは知識・技能として〇〇の力を身に付けているのではないか。」「Bさんの思考力・判断力・表現力を身に付けている証として、〇〇な姿が見られた。」「Cさんの〇〇の姿は学びに向かう力、人間性等として評価できる。」と、考察していくことが、まずは必要であると考えた。

そこで、今期研究では、単元の個人目標として設定するにあたっては中心的なものを各教科1つずつとし、評価は、3観点それぞれで記述することとし、また、いくつかの単元にまたがって、あるいは教科横断的な指導の中で1つの目標を達成することも想定し、その場合もそれが分かるように記入するようにした。

その他、前様式と同様に、個人目標に対する評価として、「学びをつなぐ」ために重要な項目である「今後に向けて」の欄を設けた。単元設定に対する評価としては、「単元についての評価」の項目があるが、新様式では「単元についての気付き、意見、今後に向けて」と項目名を変更し、引き続き、この単元が児童生徒の資質・能力を育成

するのに適した単元であったかを考察するようにした。また、個人目標と評価の欄を横並びにし、記入が一度で済む項目の配置とするなど、様式の改善を行った。

中学部数学 C グループ 数学科単元計画

期間 10/30～12/23 9 時間

場所 中1教室 10:20～11:10

対象 1年…2年…3年…

指導者 T1〇〇 T2〇〇 T3〇〇

1. 単元名「時計をよもう」(測定)

2. 単元の目標

- デジタル時計やアナログ時計の表し方を知る。
- 短針の指す場所と長針の指す場所を見て「〇時 30 分」や「〇時 15 分、〇時 45 分」を読むことができる。
- デジタル時計を見て「〇時〇分」を読むことができる。
- 絵や「朝、給食（お昼ご飯）の前」、「夕方、夜、給食の後」などの言葉を手がかりに「午前」「午後」を答えることができる。
- 自分から発表しようとしたり、電子黒板のクイズに興味をもって取り組もうとする。

3. 単元の計画 (全 9 時間)

| 次 | 時 | 日時 | 学習内容 | 指導内容 |
|---|-------------|----------------------------------|--|---|
| 1 | 1 | 10/30 | オリエンテーション ①時計作り ②〇〇先生の休日クイズ | ・日常生活の中で時刻を読むこと (小3) ・時刻の読み方 (〇時 30 分) (小3) ・時刻の読み方 (デジタル時計) (小3) |
| 2 | 2 ～ 9 | 11/4 6, 11 13, 27 12/16 | ①時計作り ②〇〇先生の休日クイズ ③プリント学習 (時計の読み方) | ・時刻と生活とを結びつけて表現すること (小3) ・時間の単位 (午前, 午後, 時, 分) (小3) |

4. 単元の個人目標（各教科・領域等） と評価

| 生徒 | 個人目標 | 評価 | 今後に向けて |
|----|--|-----------------|---|
| 〇〇 | 分の数字のヒントの入った時計の図の、短針の指す数字や長針の向きを読み、〇時・〇時15分・30分・45分を答えることができる。(小3) | ア | 時計作りでは、時の数シールや分の数シールを正しく貼って時計を作ることができた。 |
| | | イ | 短針を数字に鉛筆でつなげて、間違わず時刻を答えることができた。 |
| | | ウ | 自分から作った時計をみんなに見せて発表することができた。 |
| | | 今後に向けて | |
| | | 〇十〇分まで時刻を読む。 | |
| 〇〇 | 短針や長針の指す数字を読み、〇時や〇時30分を答えることができる。(小3) | ア | 時数のシールや分数のシールを正しく貼って時計を作ることができた。 |
| | | イ | 短針の針の位置が〇時の間にあることが分かって時刻を正しく読むことができた。 |
| | | ウ | 自信がないのか自分から発表しようと思わず、教師に確認することが多かった。 |
| | | 今後に向けて | |
| | | 自信をもてるよう来年度も行う。 | |

ア「知識・技能」 イ「思考・判断・表現」 ウ「主体的に学習に取り組む態度」

5. 単元について気付き・意見・今後に向けて

- ・「時計作り」については、作り方の順序も時計の理解のためには必要だった。教師がして見せることの方が有効だった。
- ・「〇〇先生の1日」の取り組みで、時計は自分たちの生活に身近なものであるということには気付いてもらえた。
- ・時計の読みが定着したら、「〇時〇分まで待とう。」や「〇時〇分までにやり遂げよう。」など時間感覚を働かせながら、自分の行動の調節することに役立ててほしい。
- ・日常の他の場面でも時刻をたずねたりして時計に注目させる機会を増やしたり、宿題として出したりする必要がある。

〔図－11 単元計画 記入例〕